



総務省

e-かわらばん近畿

近畿総合通信局

2021年6月29日

第290号

1/2

ローカルといっても技術は最先端！

－「近畿ローカル5G推進フォーラム」第4回会合をオンラインで開催－

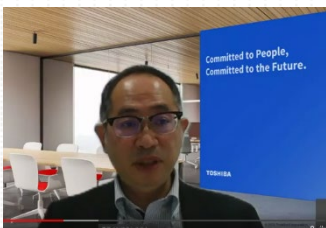
近畿総合通信局は、近畿情報通信協議会の協力により、「近畿ローカル5G推進フォーラム」第4回会合をオンラインにより開催しました。（近畿情報通信協議会公式YouTubeチャンネルにおいて、同時ライブ配信・後日の期間限定公開も実施。）

今年度初回となる本会合では、ローカル5Gの更なる活用や導入のきっかけにつなげることを目的とし、関西において企業が展開する先進的な取組や本年度の総務省施策を紹介しました。

まず、西日本電信電話株式会社 ビジネスデザイン部スマートデザイン部門担当課長 石原圭太郎 氏から同社の取組についての講演がありました。講演では、西日本エリアが日本全体の製造業の売上高の約60%を占める中、「止まらない工場」を実現することが急務であり、ローカル5Gが鍵となる技術であること、そして、現在山口県で同社が株式会社ひびき精機と実施している工場内の実証事業の詳細や、昨年12月に管内で同社がいち早く免許申請を行ったローカル5Gの新たな周波数を活用した自社の建築現場における安全管理・作業効率化の事例についても紹介されました。



西日本電信電話株式会社
石原圭太郎 氏



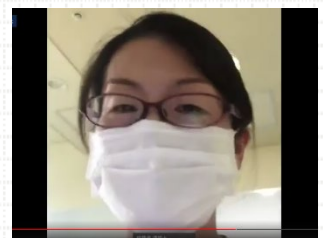
東芝インフラシステムズ株式会社 大屋靖男 氏

次に、東芝インフラシステムズ株式会社 新規ソリューション開発推進部主幹 大屋靖男 氏から、ローカル5G導入において課題となる障害物による電波不感や敷地外への電波漏洩に対し、分散型アンテナシステム(DAS)を適用することにより、エリアを細かく調整し解決を図ることができる旨の新しいソリューションについての説明がありました。また、同社府中事業所で昨年秋から開始したローカル5Gの実証について説明があり、高精細映像(4K/8K/360°映像)伝送によるプリント基板検査や工場内パトロールへの活用などの実証事例や実際の免許取得に当たったの振り返りや所感について紹介されました。

最後に、総務省 情報流通行政局 地域通信振興課 道祖土直美 課長補佐から、本会合当日に発表された今年度の総務省事業「課題解決型ローカル5G等の実現に向けた開発実証」の公募概要や事業の狙い、事業提案へのポイントなどの説明が行われました。

各講演終了後には、三瓶座長や原田座長代理をはじめ、フォーラムの構成員から活発な質疑・議論が行われ、ローカル5Gの活用・導入について課題の認識や理解を深める大変有意義な会合となりました。

なお、本会合の説明資料は、当局ホームページに掲載しておりますので、ご興味のある方は、是非ご参照ください。



総務省地域通信振興課
道祖土課長補佐

URL: https://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/01sotsu07_01001796.html





総務省

e-かわらばん近畿

近畿総合通信局

2021年6月29日

第290号

2/2

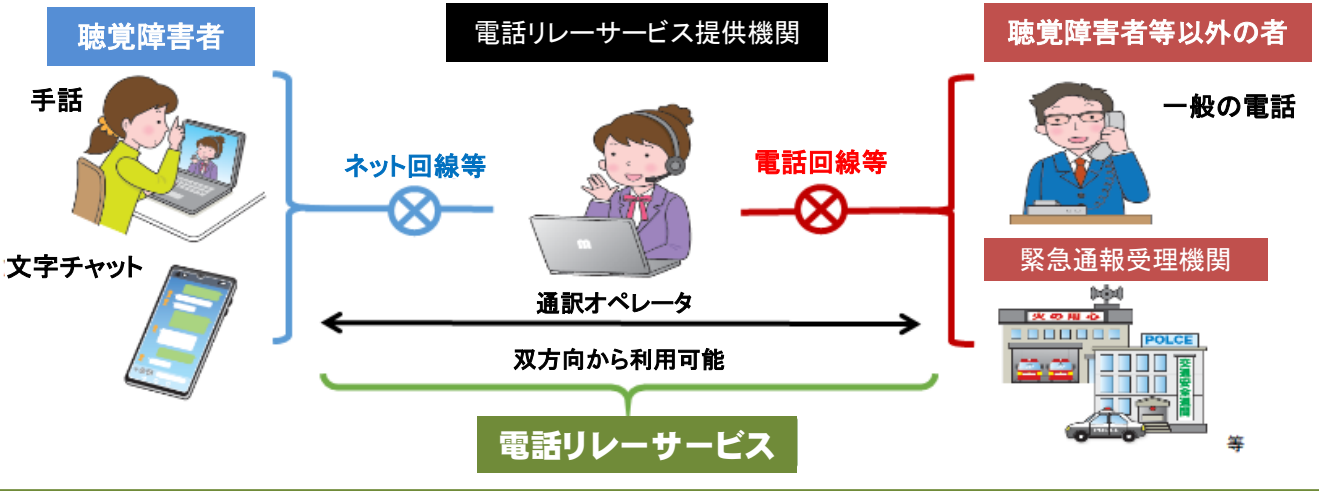
きこえない人ときこえる人を「電話」でつなぐ

「電話リレーサービス」が、令和3年7月1日から開始されます。

電話リレーサービスとは、聴覚や発話に困難のある方(以下「聴覚障害者等」といいます。)と聴覚障害者等以外の者との会話を、通訳オペレータが手話・文字と音声を通訳することにより電話で双方向につなぐサービスです。令和3年7月1日からサービス開始予定です。

6月1日より、事前の利用登録の受付が始まっています。電話リレーサービスのご利用を希望される聴覚障害者等の方は、電話リレーサービス提供機関((一財)日本財団電話リレーサービス)へお問い合わせください。

電話リレーサービスのイメージ



お問い合わせ先:(一財)日本財団電話リレーサービス <https://nftrs.or.jp/> 電話番号:03-6275-0910 受付時間:9:00~18:00(年末年始を除く)

【編集後記】

先月第289号でお知らせしているとおり、6月1日は「電波の日」です。(でした。) 例年、電波の日を記念した式典を開催しており、当局では、若手職員を中心に職員が応援スタッフとして駆り出されるのが恒例となっているのですが、昨年度に引き続き、本年度もコロナウイルス感染防止対策のため、式典は中止となりました。本年度はテレワーク業務のため、6月1日を自宅で淡々と迎え、長らくスタッフとして駆り出されていた小職としては、少し寂しい気もしています。

さて、そのほか、リアルなイベント開催が難しい状況が続いておりますが、その分、オンラインでの活動や情報提供がますます重要になっていきます。当室では、皆様のお役に立つ情報、当局の取組状況などをこれまで以上にお伝えできるよう、努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(企画広報室:K)